

### 11.5 散策の会「神楽坂」報告

平成14年11月15日(土)は「空は限りなく晴れて、どこ迄も青く澄んでいる上を、綿の光った様な濃い雲がしきりに飛んでいく」(『三四郎』夏目漱石)秋晴れの一日でした。13時30分に地下鉄東西線の神楽坂駅に集合したのは19名の面々。神楽坂には深~い想い出のある人から、な~んにも無い人まで、それぞれ一人一人の秋はスタートしました。

#### ★赤城神社

総ガラス張りで透明度の極めて高い神社には度肝を抜かれてしまいます。でも莊厳な雰囲気は少しも損なわれず、グッドデザイン賞を受賞しただけあって名建築の1つといつてもよいと思います。ただお寺ではこうはいくまいという気にはなりましたが。

明治のころ境内にあった貸席「清風亭」は、坪内逍遙指導のもと早稲田の学生が脚本の朗読や舞台稽古には励んだ所でした。またその跡地にできた下宿屋「長生館」は早稲田文士が多く住んだ場所です。



「赤城神社へ向かう」



「ガラス張りの赤城神社」

#### ★正蔵院

神楽坂の表通りからわずか脇に入っただけで静寂があたりを包んでいます。そんな中に質素な正蔵院がありました。住職ご夫妻に玄関扉を開けていただき中を拝見すると、それと分かるくらいの暗さの中に閻魔像が所在なさそうに安置されていました。



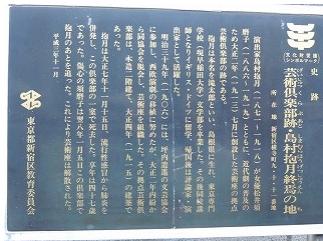
「正蔵院入口」



「閻魔大王」

#### ★芸術俱楽部跡・尾崎紅葉居宅跡

島村抱月が設立した「芸術俱楽部」の建物跡地は古ぼけたアパートの車庫の脇に、そして尾崎紅葉の居宅の跡地は民家の玄間に続く細い路地の奥に、いずれも標識だけがひっそり立っているのみで、危うく見逃しそうになりました。それにしてもこの地で亡くなった松井須磨子(34才)、尾崎紅葉(35才)のあまりにも若い死には驚くとともに、大変残念に思います。



「芸術俱楽部・島村抱月解説」



「芸術俱楽部跡」



「島村抱月終焉の地」



「尾崎紅葉解説」



「鳥居家」



「尾崎紅葉旧居(鳥居家)」

#### ★安養寺

神楽坂の聖天さまとして知られている大型歓喜天像、江戸三十三観音の1つである十一面觀音像(秘仏)が祀られています。本尊の薬師如来像は黄金色に輝きふくよかな胸のお姿を見ることができました。



「安養寺」



「安養寺薬師如來」

#### ★牛込城址

東京23区内には時代の括りを外せば55もの城跡や館跡があるといわれています。これまで当会で巡った世田谷城址や石神井城址もそうですが、ここもその1つです。戦国時代に赤城山麓から出てきた大胡(おおご)一族によって築かれたとされています。ただ遺構も発見されず当時を偲ぶものは何もありません。



「牛込城址跡」



「牛込城址のあった光照寺境内」

#### ★天文台跡

江戸時代には太陰太陽暦が使われていました。ただ実用面で不具合が生ずるので、4回の改暦が行われました。そのうちの宝暦暦がこの場所で作成されました。ただ天文台というのは明治になってから使われた名称なので、正確には「新暦調御用所(天文屋敷)」といいます。蛇足ですが明治に入って太陽暦の採用に積極的なのは大隈重信と福澤諭吉だったといわれています。



「天文台跡で説明を聴く」



「天文台現在は日本出版クラブ」

#### ★善國寺

狭い境内ながら本堂は壮大で、江戸三毘沙門の1つとして江戸時代から庶民の信仰を集め、参拝者でにぎわったであろうことは十分想像できます。高さ30センチの毘沙門天像は正面の扇子の中に拝顔できました。



「善國寺の解説」



「善國寺の境内で」

#### ★石畳と料亭の小路

神楽坂といったら“花街”。所々に見られる黒塀に今も昔の残り香が感じられます。足下をみれば“ピンコロ石の鱗張り”の石畳が細く幾筋もの小路を作っています。ただ案内者の心がけが悪いせいか日本髪にはついに出会えず、心残りの路地巡りでした。統いて番外で荒木さんの案内により見番の建物を眺めてきました。



「石畳の横道」



「作家が良く使う旅館」



「芸者見番」



「神楽坂は坂道の町」

★東京大神宮

神楽坂を下りきりJR飯田橋駅を過ぎた所にあります。ここは伊勢神宮の内宮・外宮の2神を祀っている「東京のお伊勢さん」です。縁結びのパワースポットと喧伝されているのか、参拝の若い女性がやたら目につくお社です。

結婚率が下がりつつある昨今でも、良縁を望む子はやはり多いのだということが実感できました。そのために脇には4階建ての立派な結婚式場が設けられています。ここでは幸いにも結婚式に会い白無垢の花嫁姿を拝むことができました。



「東京大神宮参拝」



「本物の結婚式は？」

★山本・滝沢両先輩から

「今度はおまえがやってみろ」とのご下命が下り、佐藤(俊)が案内と説明をやらせていただきました。これまで名ばかりの“世話役”で樂をさせていただいた罪滅ぼしにと引き受けた次第です。滝沢さんからさまざまなノウハウを教えていただき、参加者みなさんとの協力のもと無事今年最後のミッションを終了いたしました。

今回は比較的狭い範囲での散策で距離もわずかに約3キロ、懇親会までをどうつなぐか時間の配分に腐心しました。

その後希望者ののみで恒例のお疲れさん会を「土間土間・飯田橋店」で行いました。いつものように「八海山」「出羽桜」「南部美人」「ニッカ水割り」と好みが分かれ侃々諤々。やはり酒は稻門会の絆を固めます。



「散策の会御用達?の土間土間で盛り上がりました…」



(報告:佐藤(俊) 写真:荒木・山本・国友)

参加者 荒木・井垣・伊藤(徹)・大野・小平・国友・志村・鈴木(昭)・滝沢・野村・馬場・堀田・堀田夫人・増田・村上・山本・横田・佐藤礼菜(志村氏の友人)・佐藤(俊)(19名)